

《最新刊》4月5日 出版

## 『シリーズ21世紀の農学』

# 外来生物のリスク管理と有効利用

日本農学会編

出版：養賢堂

明治元年以降、人間の移動や貿易が盛んになるにつれ、新たな外来生物の導入や侵入が増加しており、それに伴い、これらの外来生物が日本固有の生態系や環境に影響を及ぼし、人の生命・身体・農林水産業に被害を与える可能性が指摘されています。このような状況を受けて、平成17年6月から「特定外来生物被害防止法」が施行され、指定された生物はその飼養、栽培、保管、運搬、輸入が禁止されることとなりました。

一方、米・野菜などの主要な作物や牧草・園芸植物・乳牛、鶏、豚、などの家畜、蜜蜂、養殖魚、やペットなど、食糧としてではなく私たちの生活には欠かせない有益な生物の多くは必ずしも日本固有の生物ではなく、その多くは世界各地からやって来た外来生物であり、そのため、今後新たな有用生物の導入や開発が農学研究上きわめて重要であると考えられています。そこで、外来生物のもつリスクと有効利用に関する最近の研究と行政上の理念の紹介を通じてその問題点を明らかにし、今後の研究を進展されるための機会とすることを目的としたシンポジウムを平成19年10月13日に開催しました。

本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の1冊となっています。外来植物・動物の研究者はもとより、学生や一般の方々など外来生物に関心のある方にもお奨めします。



◆体裁 A5判 約215ページ

◆定価 2,300円(税込)

### ■主な収載項目■

- 第1章 外来種対策と外来生物法（水谷知生著）
- 第2章 外来植物のリスクを評価し蔓延を防止する（藤井義晴著）
- 第3章 外来牧草の有効利用のためのリスク管理（黒川俊二著）
- 第4章 ランドスケープ再生事業における生物多様性配慮と外来植物（小林達明著）
- 第5章 外来植物と都市緑化  
～生態的被害・便益性の真の評価を「在来種善玉・外来種悪玉論」批判（近藤三雄著）
- 第6章 外来動物問題とその対策（羽山伸一著）
- 第7章 外来魚とどう付き合うかー（多紀保彦/加納光樹著）
- 第8章 導入昆虫のリスク評価とリスク管理  
ー導入天敵のリスク評価と導入基準ー（望月 淳著）
- 第9章 輸入昆虫のリスク評価とリスク管理  
ー特定外来生物セイヨウオオマルハナバチのリスク管理ー（五箇公一著）

日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL 03-5842-2287

FAX 03-5842-2237

E-mail: kurozumi@ajass.jp URL: www.ajass.jp